

NHKスペシャル 戦争と平和を考える番組

●原爆投下 書き替えられた真実

総合 8月6日(土) 午後9:00~9:49

「原爆投下は戦争を早く終わらせ、数百万の米兵の命を救うため、2発が必要だとしてトルーマンが決断した」

アメリカでは原爆投下は、大統領が明確な意思のもとに決断した“意義ある作戦だった”という捉え方が一般的だ。その定説が今、歴史家たちによって見直されようとしている。

アメリカではこれまで軍の責任を問うような研究は、退役軍人らの反発を受けるため、歴史家たちが避けてきたが、多くが世を去る中、検証が不十分だった軍内部の資料や、政権との親書が解析され、意思決定をめぐる新事実が次々と明らかになっている。最新の研究からは、原爆投下を巡る決断は、終始、軍の主導で進められ、トルーマン大統領は、それに追隨していくほかなかったこと、そして、広島・長崎の「市街地」への投下には気付いていなかった可能性が浮かび上がっている。それにもかかわらず大統領は、戦後しばらくたってから、原爆投下を「必要だと考え、みずからが指示した」とアナウンスしていたのだ。今回、NHKでは投下作戦に加わった10人を超える元軍人の証言、原爆開発の指揮官・陸軍グローブズ将軍らの肉声を録音したテープを相次いで発見した。そして、証言を裏付けるため、軍の内部資料や、各地に散逸していた政権中枢の極秘文書を読み解いた。



「トルーマン大統領は、実は何も決断していなかった…」

アメリカを代表する歴史家の多くがいま、口を揃えて声にし始めた新事実。71年目の夏、その検証とともに独自取材によって21万人の命を奪い去った原爆投下の知られざる真実に迫る。

●ふたりの贖罪(しょくざい) 日本とアメリカ・憎しみを越えて

総合 8月15日(月) 午後8:00~8:49

憎悪が、世界を覆い尽くしている。どうすれば、憎しみの連鎖を断ち切ることができるのか。その手がかりを与えてくれる2人の人物がいる。70年前、殺戮の最前線にいた日米2人のパイロットである。

「トラトラトラ」を打電した真珠湾攻撃の総指揮官、淵田美津雄。その後もラバウル、ミッドウェーを戦い、戦場の修羅場をくぐってきた淵田だが、1951年、キリスト教へ回心し、アメリカに渡り、伝道者となった。淵田が回心したのは、ある人物との出会いがきっかけだった。元米陸軍のパイロット、ジェイコブ・ディシェイザー。真珠湾への復讐心に燃え、日本本土への初空襲を志願、名古屋に4発の爆弾を投下した。そのディシェイザーもまた戦後キリスト教に回心、日本にとどまり、自分が爆撃した名古屋を拠点に宣教師となった。

戦争から4年後の冬、ふたりは運命の出会いを果たす。ディシェイザーの書いた布教活動の小冊子『私は日本の捕虜だった』を淵田が渋谷駅で偶然受け取ったのだ。以来ふたりは、人生をかけて贖罪と自省の旅を続ける。淵田はアメリカで、ディシェイザーは日本で。

ふたりの物語は、「憎しみと報復の連鎖」に覆われた今の世界に、確かなメッセージとなるはずである。

